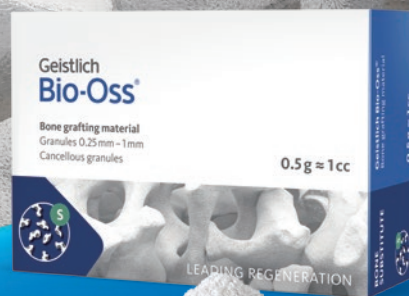


再生のパートナー ガイストリッヒ バイオオス® & バイオオスペン® インプラント治療での一部使用が可能に!

これまで歯周組織再生誘導法(GTR法)で使用されてきた
ガイストリッヒ バイオオスおよびバイオオスペンに、
骨再生誘導法(GBR法)での使用が承認されました。
一定の条件下での使用にはなりますが、
インプラント治療における
骨再生の新たな選択肢をご提供いたします。



Geistlich Bio-Oss® ガイストリッヒ バイオオス® Geistlich Bio-Oss Pen® ガイストリッヒ バイオオスペン®

骨補填材



swiss made



E-SHOP



ご注文はこちらから

インプラント治療にバイオオスを使用する際の条件

【使用目的又は効果】

本品は、骨再生誘導法(GBR法)を行う際に、抜歯窩及び(インプラントの安定性が既存骨により得られており、かつ、本品を使用した部位に咬合負荷等の荷重がかからない)インプラント周囲の骨欠損を含む骨欠損部に充填し、骨再生のために用いる。

【使用方法等】

本品をインプラント埋入と同時の骨造成に使用する場合、インプラントの初期固定は既存骨によって得られている必要がある。インプラント同時埋入の可否を判断するには、インプラントメーカーの指示に従い、標準的な臨床プロトコルに従うこと。インプラント周囲の骨欠損に使用する場合、インプラントが一定の安定性を得るための十分な既存骨が存在する必要がある、かつ、本品を使用した欠損部に咬合負荷等の荷重がかからない場合にのみ使用する。

(添付文書第6版より抜粋)

※本製品を使用する際は、添付文書をよくご確認の上ご使用ください。

ガイストリッヒ バイオオスの使用が可能な治療例



インプラント周囲の局所的骨造成

既存骨にインプラント体が埋入され、初期固定が得られた状態で、スレッドの露出・開窓などの軽微な骨欠損がある症例



抜歯即時インプラント埋入

抜歯後にインプラント体が埋入され、初期固定が得られた状態で、インプラントと頬側骨壁との間に骨欠損がある症例



歯槽堤温存術(リッジプリザーベーション)

抜歯後の歯槽堤吸収を抑制するための、歯槽堤温存術を用いる症例(ポンティック下での歯槽堤温存術を用いる症例)インプラント体を埋入するための歯槽堤温存術は適応外

非荷重の定義は、インプラント体が骨増量部位に荷重がかかっていない状態を指し、具体的には埋入されたインプラントが既存骨にのみ荷重がかかった状態を指します。

インプラントの初期固定:各インプラントメーカーのガイドラインに従ってください。